

稲枝まちづくり協議会への回答

一 彦根市における稲枝の存在について

旧市内中心で物事が運ぶような印象があり、大いには是正をすべきです。私は勤め先が石寺でしたし、三津屋に住んでいますので、風土の良さは裏腹に行政的な不足感があることも理解します。市長になれば、月に一度は稲枝支所で執務をし、誠実に地域の課題に向き合い、彦根市の均衡ある発展に努めます。

二 J R稲枝駅改築と周辺整備について

先ずエレベーター・エスカレーターを設置し、東西の自由通路を確保します。その後駅舎の全面改築及び周辺整備に取り組みます。

三 稲枝地区への企業誘致について

これまで舞茸製造工場や、農業体験リゾートの誘致を働きかけてまいりました。今後は市長（トップセールスマン）として、稲枝地域に相応しい企業の誘致について、常に意識して取り組んでまいります。政府による農業分野の規制緩和の取り組みが進められることも考慮し、次代を担う産業が根付くように政策を進めて参ります。

四 稲枝地区の農業振興について

市として稲枝を農業特区として位置づけ、生産・加工のシステムを確立し、近代産業としての農業振興を図ります。現金収入を得られる仕組みを工夫し、若い世代が担い手として参入しやすい環境整備に取り組みます。農・官・学の作業チームを立ち上げ、地域農業の展望作りを行政として強力に支援します。

五 三津・海瀬地先の未整備農地について

まず、基本的には問い4でお答えしたように、新たな農業地域の振興に取り組みます。同時に、都市計画法の改正など柔軟な対応が政府にも見られる昨今、地権者の皆様と共に、多様な土地利用の可能性を探る努力をします。

六 稲枝地区琵琶湖岸の有効利用について

湖岸緑地の拡大について、県や国に働きかけて行きたいと思えます。美しい夕日を湖畔で眺めると心が和みます。現在無秩序な利用が頻繁に見られることもあり、望ましい利用の方法を関係者と共に協議したいと思えます。野洲市のマイアミオート浜なども参考になればと考えています。

七 少子化と学校等の運営について

少子化により児童数が減っている現状では将来的な統合の必要性も議論になっていくことは承知しています。統廃合は後ろ向きなことではなく、子供たちに魅力がある新しい産業としての農業を理解してもらう取り組みも考え、今までにない学校づくりに夢が膨らみます。保護者や地域の皆様と対話を深めながら、3年程度で将来の方向性を明らかにします。

八 学校給食と地産地消について

学校給食で地元の食材を使うことは大変重要な食育に繋がります。献立の工夫と、生産者との情報共有によって、栽培から消費に繋がる一貫した流れをシステム化することが必要と考えます。学校給食の充実は私の重要政策ですから、優先的、且積極的に取り組んで行きます。

九 曾根沼の非農用地の有効活用について

現在、市・県とも協議されているリサイクルセンターも有効な案であり、支援して行きたいと考えています。これまでも、バイオエタノール生産工場やイペリコ豚の飼育場など提案をして

まいりましたが、今後この地に相応しい活用方法について関係者の皆様と共に検討し、前向きに取り組みたいと考えます。

十 公共下水道整備について

財政状況に配慮しつつも積極的に整備を進めます。集落によっては隣接する愛荘町や豊郷町等で既に整備されていることもあり、接続先について広域での協力を求めて整備促進を図れな
いか検討します。

十一 JRびわこ線「新快速」停車について

積極的に要望活動に取り組みます。先ず、特定の時間帯による停車実現に向けてJRと協議
したいと考えています。同時にJR東日本にも協力を呼びかけ、名古屋方面への新快速増便や接
続改善を働きかけます。